

いつでも皆が集い、いつまでも皆を守る、 みどり豊かな“丘の上の庁舎”を実現します

安積原野の広々と開けた平坦地に、「の」の字型にくるりと登ってゆく、みんなが憩う「みどりの丘」をつくろうと思います。

みどり豊かに植栽されたデッキ広場「丘うえ」は、まちを見晴らす居心地よい立体的な都市公園であり、働く方々のリフレッシュ空間です。そこへ繋がる1/20以下の緩いマウンドの「丘なか」によって、近年の豪雨や河川氾濫の際に子供や老人、障がい者といった避難弱者を含めて、全ての街の方々の高台の避難地としても機能します。

下層に広がる「丘した」の半屋外空間は、日常では陽差しの強い日や雨天・降雪時の市民活動を支える使い手のいい庇下のコミュニティ空間です。また3、11のような大災害時には隣接する室内空間と合わせて炊き出しや救護等の被災者支援や、車両による物資の搬入搬出をサポートする強力な災害時支援空間となります。

そしてこの丘の上には、全ての災害を避けるように、まさに免震装置によって宙に浮かぶ明るく風通しの良い籠状の高効率・高機能な行政空間を配します。

日常はより豊かで幸福に、非常時には県民を確実に守る、これからの郡山の新しい庁舎を実現します。

テーマ1【利便性及び快適な執務空間の確保】 “施設”の集約による「都市景観」の形成

ビッグパレット側の交差点付近へとボリュームを寄せて配置することで、閑散としたエリアに、都市的な集約感のある景観を作り出します。

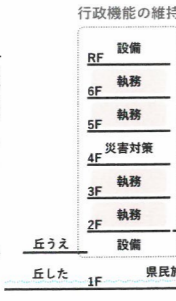
○「オカ（丘）：おおらかな都市空間」と「カゴ（籠）：高機能な行政空間」で、常に心地よく、有事に役立つ、みんなの庁舎をつくります

テーマ1【利便性及び快適な執務空間の確保】
テーマ2【安全・安心の拠点となる庁舎】

水没しない上層の行政空間／街に近い下層のコミュニティ空間

どのような災害が起こったとしても、確実に機能し、まちを守る庁舎とするために、行政機能（カゴ）は、主要設備を含め、基本的に水没しない上部に配置します。街に近い下層部（オカ）は広々としたコミュニティ・スペースとしてまちに開放します。

また部門ごとに階を分け、利用者にとってわかりやすい明快な階構成とします。



テーマ1【利便性及び快適な執務空間の確保】
テーマ3【人にやさしく、環境に配慮した庁舎】

センターコア・小平面のコンパクトな導線計画

共用部に面して間口の広い窓口スペースを確保し、柱の落ちない見通しのよい平面計画とすることで、わかりやすくスムーズな行政サービスを可能とします。ワンフロアを適切な面積とすることで、移動距離が短く、働く方々の業務効率や移動弱者へのユニバーサルデザインに配慮するとともに、将来のレイアウト変更にも柔軟に対応します。

テーマ1【利便性及び快適な執務空間の確保】
テーマ4【社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎】

「全周えんがわ」で明るく健康的な執務空間

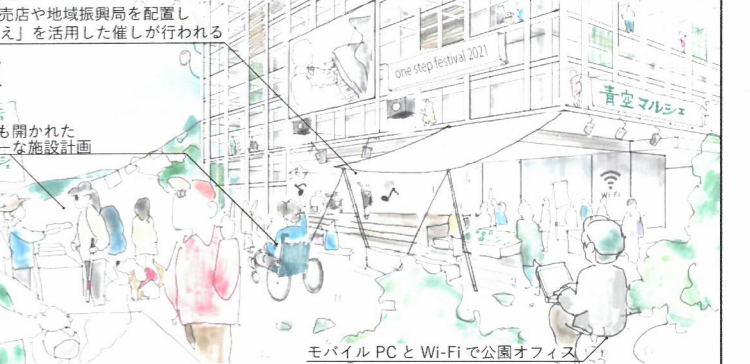
フロアを取り巻くえんがわ空間は、執務者のリフレッシュ空間であり、自然採光や通風を約束する環境装置でもあります。執務空間は共用部に面した「コミュニケーション」、落ち着いた作業空間「ワーク」、えんがわ付近の「リフレッシュ・ミーティング」から構成され、ワンフロアの中に性質の異なる空間を生み出し、1日の業務にメリハリを与えます。

えんがわは所々で、磐梯山など景観の良い方向に向けて、奥行きを持ったオープンエアの空間となり、執務者や来訪者の活動や休息の場所となります。

テーマ1【利便性及び快適な執務空間の確保】
テーマ2【安全・安心の拠点となる庁舎】

「丘うえ」は都市公園＝避難高台

見晴らしのいい高台の広場。大雨や洪水などの災害時には高台の避難地としてはもちろん、行政機能（カゴ）へのサブ・アクセスとなり防災機能を持続します。木デッキと芝張りや様々な活動と憩いの場を提供しつつ、植栽による蒸散効果も活用しエコロジカルな庁舎とします。



テーマ2【安全・安心の拠点となる庁舎】
テーマ3【人にやさしく、環境に配慮した庁舎】

「丘なか」はマウンド上のやしき森＝避難用の緩勾配スロープ

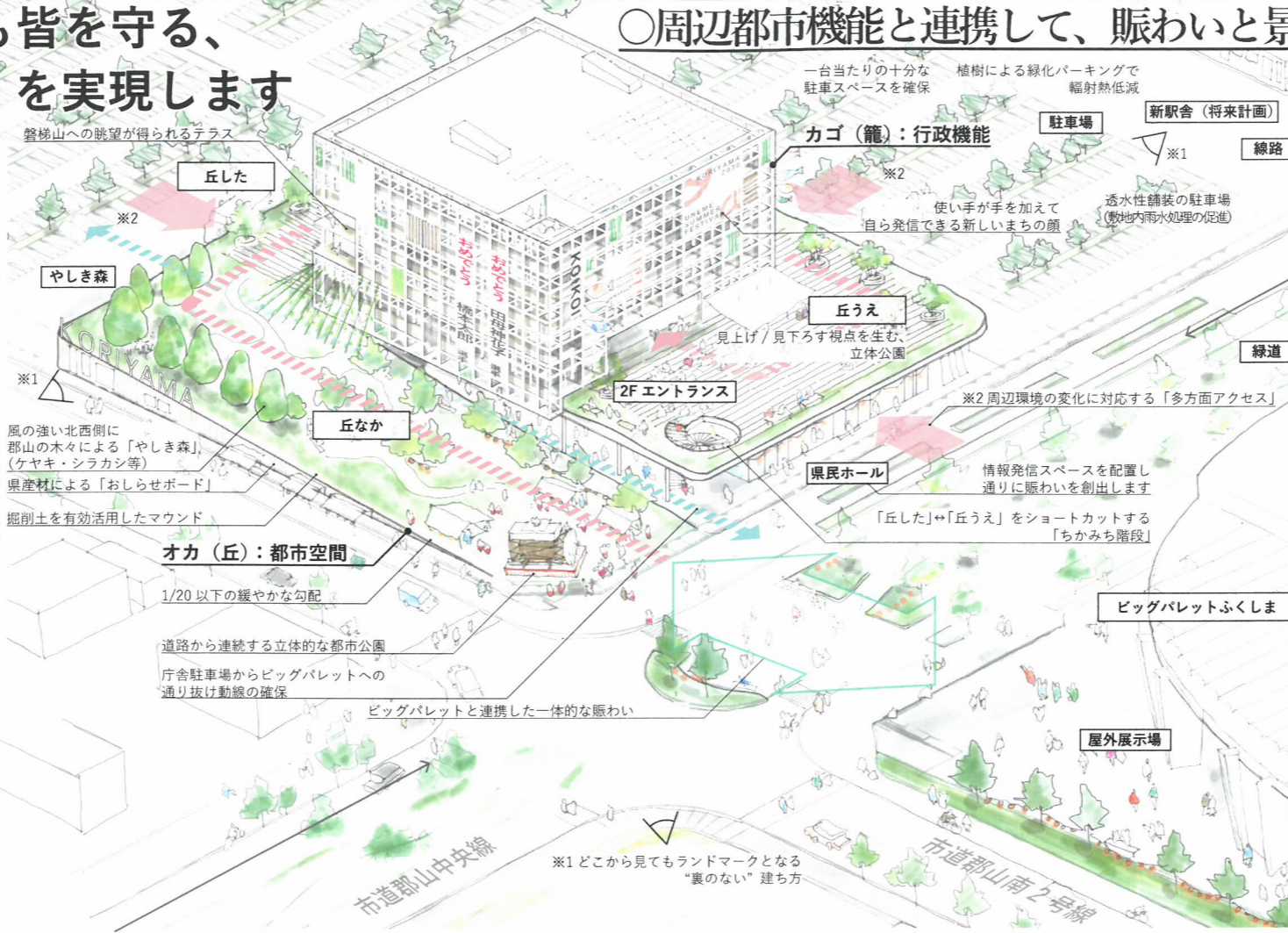
街に面し、風の強い北西側の「丘なか」は、郡山の樹々による「やしき森」として、景観緑化と防風に配慮します。斜面は工事掘削土を再利用し、場外搬出を無くすとともに、高木の植樹も可能にします。洪水等の災害時にはユニバーサルな避難スロープ（1/20以下）として機能します。

テーマ1【利便性及び快適な執務空間の確保】
テーマ2【安全・安心の拠点となる庁舎】

「丘した」は半屋外のコミュニティ空間＝災害支援空間

雨天や降雪時でも活動ができる半屋外の庇下空間。建具を大きく開くことで内部空間と一体化し、様々な市民活動に活用できます。災害時には大型車両や重機による支援物資の搬入搬出の場として、炊き出しや救護の空間として、様々な災害対応を強力にサポートします。

○周辺都市機能と連携して、賑わいと景観の「まちのセンター」を形成します



テーマ1【利便性及び快適な執務空間の確保】
“賑わい”の集約による魅力ある「通り」の形成

将来その先に新駅舎が計画される可能性のある通りに面して「県民ホール」や「会議室」、「丘うえ」を配置し、通りに賑わいを表出します。

商業施設が並ぶ幹線道路には、ゆるやかに登りゆく斜路を配置して、立体的な都市体験の楽しさを演出します。

テーマ1【利便性及び快適な執務空間の確保】
テーマ2【安全・安心の拠点となる庁舎】

ビッグパレットとつながる都市空間

まちの日常に大きくひらかれた「オカ（丘）」の都市空間。向かいのビッグパレットふくしまの大庇下の広場や大階段と連携して、一体的な都市空間を形成します。

テーマ1【利便性及び快適な執務空間の確保】
テーマ2【安全・安心の拠点となる庁舎】

だれでも/どこからでも入れる庁舎

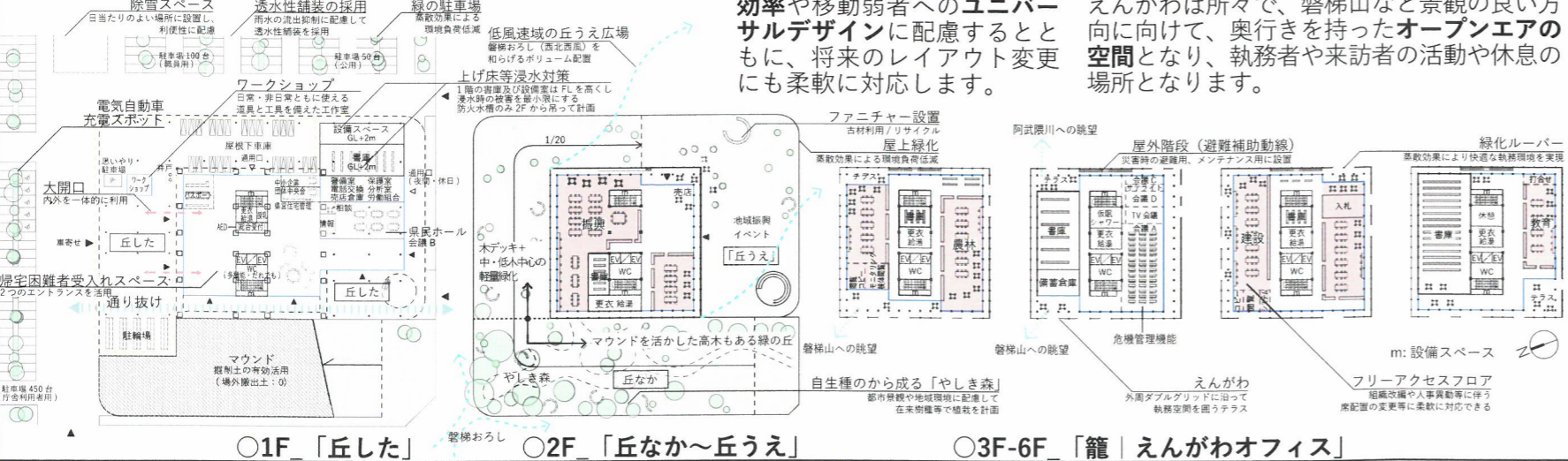
1・2階にエントランスをとるダブルアクセスとし、街との接続性を高めます。1階は「駐車場」や「ビッグパレット」と広々とした軒先空間でつながり、2階は人々が憩いにくる緑地の「立体公園」に開いています。

テーマ1【利便性及び快適な執務空間の確保】
テーマ2【安全・安心の拠点となる庁舎】

維持管理や周辺環境に配慮した配置計画

駐車場の積雪や線路からの騒音など、周辺環境による影響を多角的に配慮し、庁舎を敷地南西に寄せた配置を提案します。

配置イメージ	A		B		【庁舎南西側配置】
	庁舎	P	庁舎	P	
環境	◎	◎	◎	◎	◎
維持管理	◎	◎	◎	◎	◎
利便性	◎	◎	◎	◎	◎
周辺への影響	×	×	×	×	×
ビッグパレットとの連携	◎	◎	◎	◎	◎
庁舎	×	×	×	×	×



○「柱頭免震」と「外周ダブルグリッド」が生み出す、地震・溢水に強く、将来に渡ってフレキシブルに使える庁舎

テーマ2【安全・安心の拠点となる庁舎】

テーマ4【社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎】

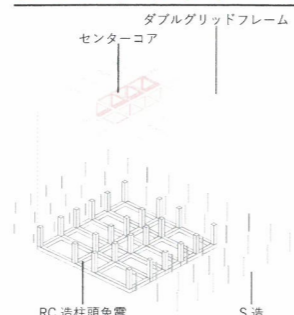
水没の恐れがなく、更新しやすい柱頭免震

庁舎主要部を免震構造として地震力を低減する「しなやかで強い建築」とします。また、水害にも対応できるように、免震層を1階柱頭分に設け、浸水時の免震装置の保全と将来的な免震ゴムの更新や目視による状態確認を容易にします。また、柱頭免震とすることで地下ピット範囲を最小化し、水没に備えつつ経済的な計画としています。庁舎と「丘」の接する部分には免震スリットが必要となりますが、2階床の出入り口部のみをエキスパンションジョイントのディテールとし、床レベルが異なる部分では段差を利用した振幅範囲とすることで、余計なコストが生じないよう工夫します。

テーマ2【安全・安心の拠点となる庁舎】

テーマ4【社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎】

ダブルグリッド+センターコアによる無柱空間

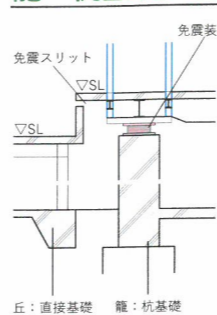


免震層より上部の階は軽量・安価な鉄骨造とし、「センターコア」と「外周のダブルグリッドフレーム」で構成します。外周部はフレームのピッチを小さくして細かい部材で構成します。この構造システムにより執務室は約15m スパンの無柱空間を経済的に確保でき、フレキシブルな平面計画が可能です。

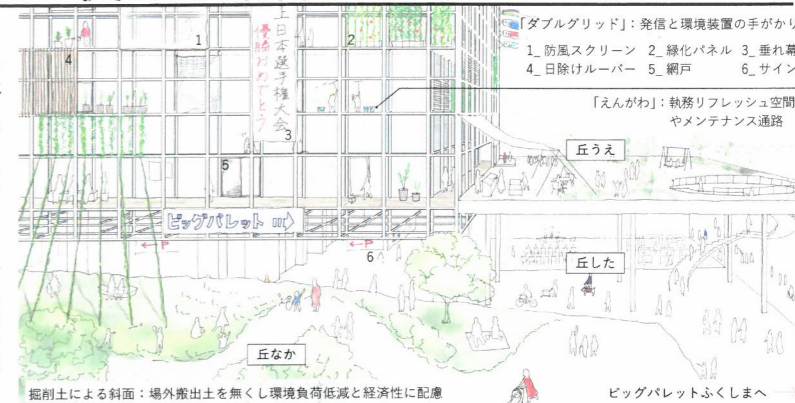
テーマ3【人にやさしく、環境に配慮した庁舎】

テーマ4【社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎】

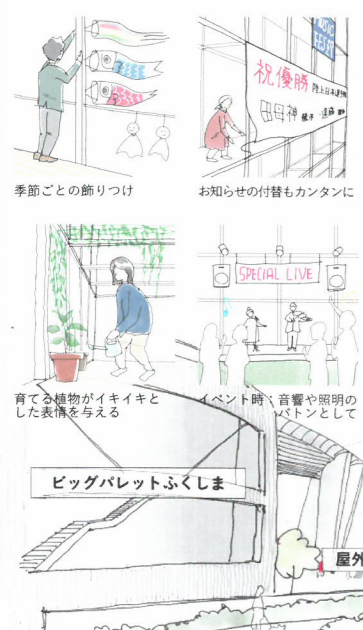
籠=杭基礎/丘=直接基礎。経済性と強度の両立



中心部の階数が多いRC+S造の「カゴ」には杭基礎を採用し、その外周の平屋の「オカ」は中心部からは独立した軽量のS造とした上で、安価な直接基礎とします。N=10前後と表層部付近で地耐力の出る土地性状を活かし、重量部と軽量部に切り分けた構造形式とすることで、構造強度と経済性の両立した計画とします。



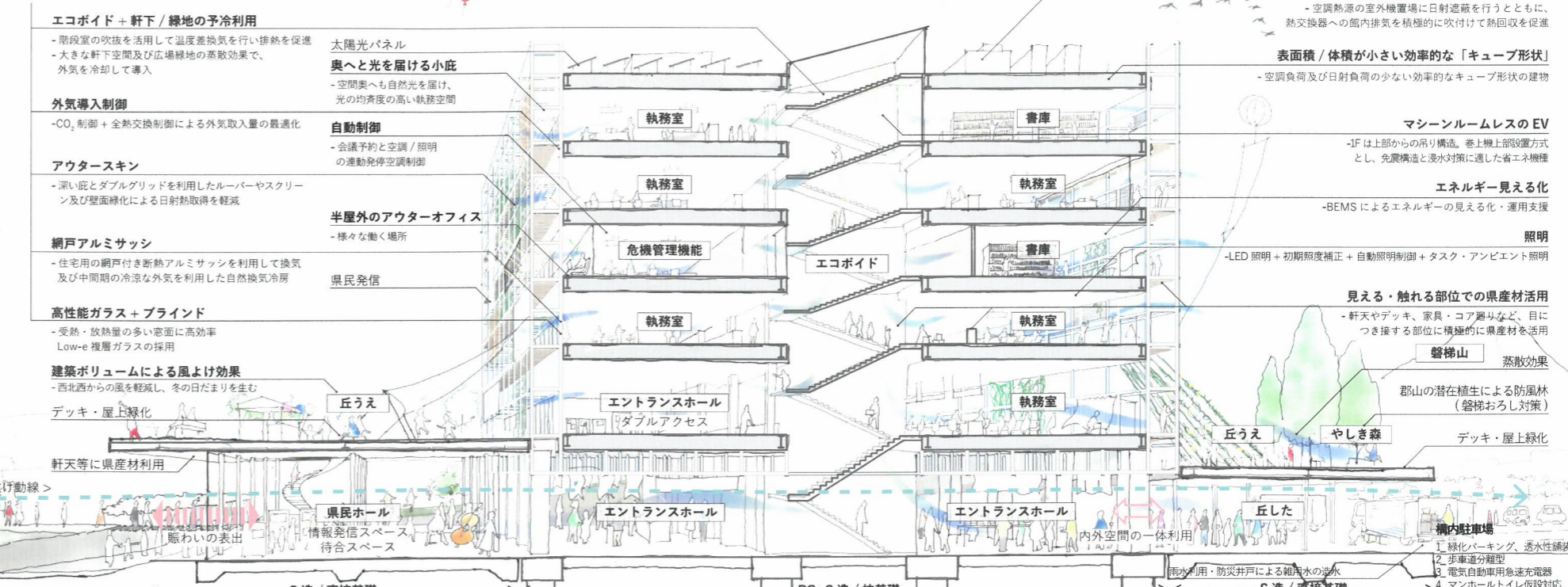
○県民も職員も皆が手出しのできる「フレンドリーな建築」です



テーマ4【社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎】
皆で手を加え、発信できる庁舎

ヒューマンスケールの「小さな構造体」による「えんがわ」は、県民も職員も思い思いに手を加えカスタマイズしていく参画装置です。たとえば緑化や日除けのパネルを付けて快適な空間をつくる環境装置として、垂れ幕で県民活動を伝える地域交流を促す装置として活用します。社会変化によるさまざまなニーズも柔軟に受け止め、利用者の活動そのものが建物の表情をつくり地域の魅力を伝える「フレンドリーな建築」を提案します。

「ダブルグリッド+えんがわ」が生み出す環境装置



○環境的に「素性の良い形式」と、「先進・在来技術の組み合わせ」で、エコジカルでエコノミカルな施設とします

テーマ3【人にやさしく、環境に配慮した庁舎】

「丘」と「ダブルグリッド+えんがわ」が生み出す環境性能

緑化された外構の蒸散効果で冷えた涼風を、深い軒先経路で積極的に取り入れます。また、日射熱取得を軽減するテラス外装(アウトースキン)に加え、エコポイド利用の温度差換気+卓越風による負圧誘引効果により、自然換気(外気冷房)を促進します。窓開放時は建物全体にゆるやかな気流が形成され、概ね1回/hの自然換気が可能なことがシミュレーションにより確認されました。自然換気に不向きな条件下では機械式による適正換気を行います。

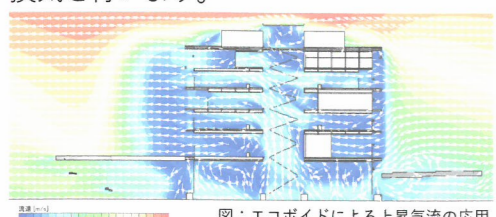


Table with 2 columns: Category (Natural Energy, Building, Electrical, Mechanical) and Description of environmental performance measures.

テーマ4【社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎】

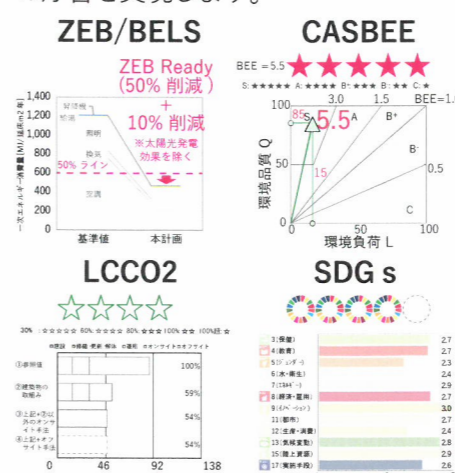
これからの執務環境 | 先進技術と誰もが分かる技術の併用

SARS(2002~)、MERS(2012~)、COVID-19などの感染症頻発を踏まえ、建物形態を活かした自然換気を促進すると共に、外気冷房効果も期待して最大40m³/h・人の十分な機械換気が行えるシステムを構築し、外気冷房有効時や感染症対策時の増量制御と、それ以外の期間のCO₂制御+全熱交換制御によって、衛生環境確保と省エネの両立を図ります。テラスに面した窓には流通規格品の網戸付アルミサッシを利用し、BEMSによるエネルギーの見える化・運用支援に加え、庁舎職員に窓開け等の省エネ行動を促すお知らせシステムを導入することで利用者参加による通風運用を可能にします。緑化された広場やカスタマイズ可能なテラスに面した屋外環境を感じられる執務空間は、知的生産性・ウェルネス環境の向上を促進します。情報ネットワークや各種設備及びそのメンテナンススペースを十分に確保し、将来的な行政事務の効率化にも対応します。深い庇で守られた窓は汚れにくく清掃も容易なことに加え、設備スペースにもテラスからのアプローチが容易で、大規模な足場を組むことなく運用しながらの改修も可能なため、維持管理コストを削減できます。

テーマ3【人にやさしく、環境に配慮した庁舎】

高い環境性能の実現

構造・景観・環境設備・計画を総合的に組み合わせることで、高い環境性能の庁舎を実現します。



○最後まで機能し、まちを災害から守る「ダウンしない庁舎」とします

テーマ2【安全・安心の拠点となる庁舎】

予期せぬ自然災害や事故によるインフラ喪失対策

エネルギー供給の信頼性向上と安全性の確保
・本線予備線方式等の信頼性の高い受電方式
・主要な設備諸室を各種災害による浸水被害を受けないレベルに配置
・デュアルフェーゼル発電機によるバックアップ燃料の多重化
・非常時の給水制限(バルブ操作)が可能となる上水供給システムの構築
・雨水+井水+空調ドレンを水源とした雑用水供給システムの構築
・下水道本管破断時のトイレ継続利用の対応
- 構内: マンホールトイレ仮設対応
- 建物内: 非常時対応排水槽設置
・危機管理機能室と帰宅困難者受入エリアは非常時の全機能継続使用を可能とし、72時間に対応した災害用備蓄倉庫(非常飲食・機材)を設置

